

－発表要旨・論文－

## 一般演題（2）

### 1. 大腸内視鏡検査前処置の洗腸効果の薬剤比較

医療法人 回生会 生駒外科医院

内視鏡技師・看護師 ○坂上 健一

医師 生駒 茂

#### 【はじめに】

当院では全大腸内視鏡検査（以下TCS）の前処置薬剤としてマグコロールP<sup>®</sup>（以下マグP<sup>®</sup>）とモビプレップ<sup>®</sup>（以下モビ<sup>®</sup>）の2剤を使用している。

#### 【目的】

当院で採用しているマグP<sup>®</sup>とモビ<sup>®</sup>の投与方法で両者に洗腸完了時間・洗腸効果・追加下剤の有無等で差があるか比較する。

#### 【対象】

平成27年10月1日～平成28年3月31日までにTCSを施行した474名。

A群：マグP<sup>®</sup>238件（平均68.7歳） B群：モビ<sup>®</sup>236件（平均65.9歳）

#### 【投与方法】

A群：検査当日マグP<sup>®</sup>900ml＋シンラック<sup>®</sup>内用液0.75% 10mlを入れ30分で服用。

B群：検査当日モビ<sup>®</sup>600ml＋シンラック<sup>®</sup>内用液0.75% 10mlを入れ15分毎にモビ<sup>®</sup>200ml服用後、水100ml服用を3回繰り返す。

※両群とも検査3日前よりプルゼニド（12）<sup>®</sup> 2錠（眠前）服用し検査前日に検査食（クリアスルー<sup>®</sup>）を摂取。

#### 【比較項目1】

下剤服用開始から洗腸完了時間・初回排便時間・検査可能になる排便回数  
追加下剤・腹部手術歴による洗腸時間の差

#### 【比較項目2】

洗腸効果を検査担当医師が4段階で評価

①腸管内に残渣がほとんどなく良好な観察が可能 ②残便が存在するが観察に支障はな

い ③便の存在が観察に支障あり ④残便が多く観察が不可能 ①②を良好群③④を不良群と分類した。

### 【結果】

(1)下剤服用開始から洗腸完了時間はA群2時間37分、B群2時間20分でB群が17分短く有意差があった。初回排便時間はA群51.8分、B群49.7分であった。検査可能になる排便回数はA群5.3回、B群5.2回であった。

追加下剤はA群34人(14.2%) B群15人(6.3%)に投与された。

腹部手術歴有りの洗腸時間はA群2時間38分B群2時間25分。対象はA群150件B群128件。

B群が早くきれいになったが、両群とも洗腸時間の延長を認めた。

腹部手術歴無しの洗腸時間は、A群2時間35分B群2時間14分であった。対象はA群88件B群108件。

(2)洗腸評価(追加下剤なしのみ)

A群：良好群は95.4%(対象204/238件)

B群：良好群は97.3%(対象221/236件)

### 【考察】

B群モビ®の方がA群マグP®より洗腸完了時間が17分短く、初回排便時間もモビ®が2分ほど早かった。

追加下剤もB群モビ®は6.3%で A群マグP®14.2%より少なかった。

検査可能になる排便回数と洗腸評価はA群マグP®、B群モビ®はほぼ同等であった。

以上よりB群モビ®の方が早く検査ができ、追加する頻度も少ないため、検査を早く終了させる必要がある症例ではモビ®投与が有用であるとおもわれる。

### 【結語】

モビ®はマグP®よりも洗腸完了時間が短く追加投与も少ないことから、患者の負担は少ないと考えられる。洗腸効果は同等であった。

【連絡先：〒891-0405 鹿児島県指宿市湊2丁目23-20 TEL：0993-22-3059】